

令和5年度第1回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

日 時	令和5年11月6日(月) 午前9時30分～午前11時00分
会 場	Web会議システムを使用
出席委員	高田委員(会長)、青木委員、村野委員、松井委員、盛本委員、渡部委員、澤田委員

1 【事業評価】再評価実施事業対応方針(案)に対する意見の 取りまとめ

① 201 道路改築事業 一般県道蓮田杉戸線(黒浜バイパス)

委員： 走行時間短縮便益は、前回評価時より約37%増加しているが、P38の「蓮田市の将来OD」、「時間価値原単位」はそれほど増加していない。他にも要因があるのではないか。

事業課： 便益算定範囲は蓮田市、白岡市、伊奈町、さいたま市見沼区、さいたま市岩槻区であり、この範囲の将来ODが大幅に増加している。

委員： 便益算定範囲のODを資料に記載していないため分かりにくい。

事業課： 今後、資料を作成する際に注意していく。

委員： 交通事故減少便益が前回の評価時より減少しているが、それは交通事故が増えるということになるのか。安全対策については、どう考えているか。

事業課： ODが変わったことで、どうしても前回の評価時より減少している。今回の算定結果としては、便益はプラスとなっており、安全対策も施されているため、事業実施により交通事故が増えることはないと考えている。

委員： バイパス整備だけで、現道のNO2とSPMの排出量が大幅に削減されたように読み取れる。バイパス整備とは関係の無い、車の性能向上によっても大幅に排出量は削減される点を明記すべきではないか。

事業課： 今後、資料を作成する際に注意していく。

委員： バイパス整備により高速道路から、一般道路の交通量への転換や分散が発生と記載されているが、それだけが要因ではないのではないか。表現の仕方を工夫した方が良いのではないか。

事業課： 要因については、将来ODの変化が大きいと考える。表現の仕方は、今後、資料を作成する際に注意していく。

委員： バイパスは緊急輸送道路になるのか。

事業課： 第二次緊急輸送道路に指定されているのは現道であり、バイパスが指定されるかについては、決まっていない。

○対応方針（案）について

- 会長： 継続とするという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。
- 委員： 異議なし。

② 202 街路整備事業（都）環状1号線

- 委員： H27ODデータがH22ODデータと比較して交通量が増加しているのは、ホンダ技研工業株式会社の工場新設によるものと思われる。それも影響して、R22ODデータの予測値がH42ODデータの予測値と比較して37%増加する結果となったこと自体は納得できた。しかし、人口減少が続くと予測されている地域であり、過大推計となっている印象が否めない。事業実施の可否の判断等に交通量データの予測値を用いる場合は、過大評価にならないようにデータの取り扱いに注意していただきたい。
- 事業課： 当該ODデータは、様々な情報を見込んで国が算出しているものである。データの取り扱いについては今後も注意していく。
- 委員： P63にある現道の写真を見ると渋滞している状況は見られず、歩道に関しても広く幅員を取っている。このため、この写真からは事業の必要性が感じられない。掲載する写真を工夫した方が良いと考える。
- 事業課： 当該写真は現道部分の写真であり、この先の区間では、事業中につき行き止まりとなっている状況である。使用する写真等については、今後資料を作成する際に注意していく。

○対応方針（案）について

- 会長： 継続とするという対応方針案のとおりでよろしいか。また、附帯する意見もなしでよろしいか。
- 委員： 異議なし。

2 【計画評価】事後評価実施事業の報告

① 2-51 埼玉県無電柱化推進計画（無電柱化推進計画支援）

参考意見は以下のとおりである。

- 委員： 3か年の計画が1か年の計画となったことで、元の計画とどの程度の差が生じたか。
- 事業課： 計画どおり3か年実施していれば、最終目標値56.8Kmに対し、実績値58.5Kmとなり、目標は達成できた。
- 委員： 「埼玉県無電柱化推進計画」自体は、将来的にどのくらいの無電柱化を進める計画となっているか。
- 事業課： 令和4年度から令和8年度の5か年計画において、65.7Kmの整備を目標としている。
- 委員： 65.7Kmが最終的なゴールであり、無電柱化の推進が終了ということか。長期ビジョンを持って事業進捗をしていく方が望ましいと考える。
- 事業課： 5年ごとに区切って計画をたて、無電柱化を推進している。次の5か年計画においても、再度目標を掲げて整備を進めていくこととなる。